

特別枠 多頭飼育崩壊現場支援報告書



申請 No.3

申請日：2017年12月6日

実施責任者：保護猫ふれあいハウスかぎしっぽ代表 T 氏

場所：長野県飯田市

協力団体：保護猫ふれあいハウスかぎしっぽ

居住者：当事者本人（65歳、男、無職）

居住環境：借家/戸建て

生活保護の需給状況：受給していない

多頭飼現場の猫の総数：28頭(内9頭は手術済)

手術日：1月30日

チケット発行数：19枚

実際に使用したチケット：19枚

協力病院：moco どうぶつ病院

手術頭数：19頭

申請までの経緯（報告書より）

- 1.野良猫が可哀想だと言って次々と飼っていったのがはじまり。
- 2.当事者が体調を崩し入院してしまった。（脳梗塞による長期入院）
- 3.当事者より看護師へ「猫を多数飼育しているがそれが出来なくなった。保健所に連絡し、対処してもらえないか。」との話があった。

- 4.看護師が別居の身内へ連絡し現場を見たところ、とても手に負えない状況だった為、保健へ相談した。
- 5.保健所からは「全て殺処分する事を前提なら引き取るが、そうでないなら自分でどうにかして下さい。」と対応してもらえなかった。
- 6.以前より知っていた保護猫ふれあいハウスへ相談に来た。

実施スケジュール（報告書より）

- 10月31日（火）初めて現場へ行く。
- 11月1日（水）猫たちにエサと水を与える。
- 11月2日（木）猫たちの住むところを探す。
- 11月3日（金）猫たちを保護し新しい家へ移す。

長野のNPO法人「猫日和」様より連絡があり6頭引き取って頂けることになった。

- 11月7日（火）猫日和様へお願いした6頭のうち3頭の去勢・不妊手術を行った後引き渡し。
- 11月8日（水）ふれあいハウスのお客様やインターネット等を使い里親さん探しもスタート。
- 12月6日（水）どうぶつ基金へ申請。
- 1月30日（火）病院へ運搬・手術（moco どうぶつ病院）。

不妊手術後、順番に里親さんを決め譲渡していく。

残念ながらこちらには協力団体等はないので、保護猫ふれあいハウスかぎしっぽと少数のボランティアのみで実施していく。

現場写真（支援前）



現場写真（支援後）



今回の取り組みを振り返り、改善すべき点や今後の配慮事項（報告書より）

このようなケースは初めてだったのですが早くに別の場所に移して保護ができて、猫達にも綺麗な環境を与えることが出来ました。

もっと早く、どうぶつ基金を知っていればよかったです。

飯田市では、犬の保護活動は積極的に行っているが猫の保護活動は何もしておらず、私たちが保護猫活動を初めて行うようになりました。

殺処分を少しでも減らしていき、不妊手術を積極的に行っていきたいと思います。